秋田大学
高等教育グローバルセンターニュースレター

Vol.11
2024.9

GLOBAL CENTER FOR HIGHER EDUCATION NEWSLETTER

ボリス・グリチェンコ記念キーウ市立大学（ウクライナ）と大学間協定を締結

2024年６月28日（金）、秋田大学はボリス・グリンチェンコ記念キーウ市立大学（以下、キーウ市立大学）と学術交流に関する協定書および学生交換に関する覚書を締結しました。調印式はオンラインで行われ、本学から南谷佳弘学長、後藤猛理事（教育・国際・情報担当）等４名が出席しました。また、キーウ市立大学の学生で、現在本学で特別聴講学生として学んでいるアナスターシャ・ホロブニャさんが陪席しました。キーウ市立大学からは、オレクサンドル・トゥルンツェヴ学長代理等６名の関係教員が出席しました。

↑オンライン署名式の様子

調印の後、南谷学長より、秋田大学では2022年４月からのべ10名のウクライナ学生を受入れ、現在も６名の学生が学んでいる旨の説明があり、キーウ市立大学と協定を締結できることは大変喜ばしく、今後学生および研究者間の交流が活発になることを期待する旨の発言がありました。これに対して、オレクサンドル・トゥルンツェヴ学長代理から、秋田大学で学修を続ける学生たちが得た経験と知識が、彼らの専門的、創造的、科学的成長に貢献することを確信するとともに、将来にわたる両大学間の協力関係により、両国の相互理解が深まることを期待する旨の発言がありました。

今回の協定締結により、本学の大学間協定校は、37カ国・地域78大学・機関となりました。

独立行政法人国際協力機構と資源分野等の連携協定を締結

2024年７月３日（水）、秋田大学は独立行政法人国際協力機構（以下JICA）と資源分野等の連携協定を更新しました。

調印式はANAクラウンプラザホテル秋田で行われ、JICAより田中明彦理事長等11名が出席し、本大学からは南谷佳弘学長、後藤猛理事（教育・国際・情報担当）等８名が出席しました。調印の後、南谷学長から、連携協定の更新により秋田大学とJICAの双方の長所を生かした資源分野の国際協力事業が、長期的かつ戦略的に実施できることとなり、我が国の安定的な鉱物資源の確保に貢献することを確信する旨の発言がありました。これに対して、田中明彦理事長から、連携協定の更新が、今後国内の地域活性化や、日本でのグローバル人材育成にも重要な貢献を果たすものになると確信するとともに、これまでの連携実績を土台として、今後の資源分野の協力の発展的展開を期待する旨の発言がありました。

調印式に引き続き、懇談・昼食会が開催され、出席者からこれまでに築かれた途上国との関係強化についての意見交換が行われました。

JICAと秋田大学は、2019年５月に「資源分野等の連携協定」を結び、お互いの強みを生かした協力を進めてきました。特に、2014年から実施している資源分野の留学生受入事業「資源の絆プログラム」では、これまでに63名が秋田大学で学んでおり、今回の協定更新により、更なる資源分野での協力強化が期待されます。

↑（左から）南谷佳弘学長、田中明彦理事長

新留学生オリエンテーション

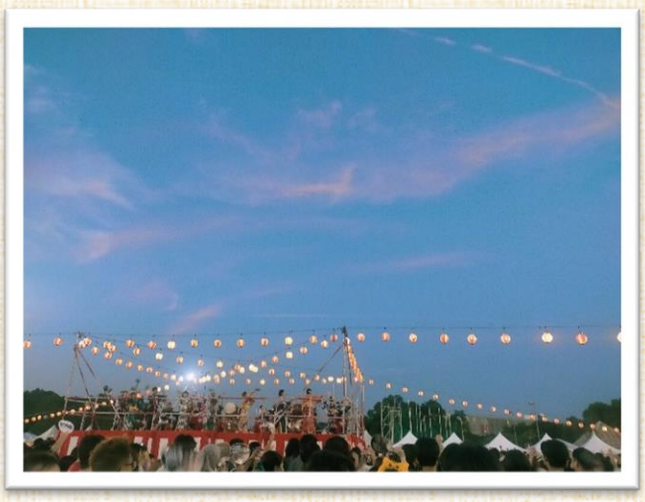
2024年４月４日（木）、新たに入学した外国人留学生向けに、オリエンテーションを実施しました。前半は日本語クラスや生活上の諸注意事項等に関する情報提供を行い、後半はグループに分かれて在学生によるキャンパスツアーを行いました。翌週12日（金）には立食形式のWelcome Partyを実施。秋田にまつわるクイズアクティビティ等で親睦を深めました。

留学体験記

マラヤ大学

国際資源学部国際資源学科資源政策コース　４年次　佐々木　康

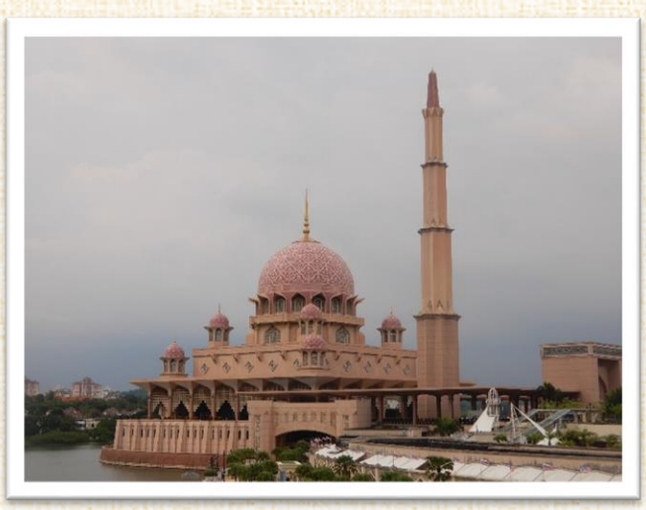
　私は2023年９月から2024年７月末までマレーシア・マラヤ大学に交換留学していました。交換留学先では、ゼミで専攻している国際協力に関連した講義を受講しました。講義内容は学生と教授間の議論が中心で、私は進んで講義内で疑問や意見を説明するよう努めました。講義の課題の一環として、私は現地学生へのインタビューや現地NGOのボランティア活動に参加しました。現地の活動を通じて、国際協力への理解を深めるのみならず、能動的に行動する大切さを学びました。



↑マレーシアの盆踊り大会（2024年７月開催）

　課外活動として、私は他の日本人学生と共に流しそうめんといった日本文化を発信するイベントの運営に参加しました。また、日本人会が主催する世界最大規模の盆踊り大会に参加しました。留学先には日本に興味関心を持つ現地人が多く、日本は世界から愛されていると肌で感じました。

　日本とマレーシアは気候、宗教、住環境や食事といった点で異なっています。多民族国家であるマレーシアでは、異なる文化を持つ人と出会う機会が多々ありました。留学生活の体験全てが、自分には目新しく映りました。１年間の留学で、異文化に適応する力が得られました。また、マラヤ大学には世界中の学生が在籍しています。交換留学を通じて、世界の文化に触れ、自身の視野を広げることができました。



↑イスラム教の礼拝所（ピンクモスク）

国際交流イベント「LET’S MEET UP! －多言語で話そう－」

2024年４月17日（水）・４月24日（水）・５月15日（水）に「LET’S MEET UP! －多言語で話そう－」が開催され、累計21名の学生が参加しました。参加学生による感想を紹介します。本イベントは、日本語または様々な言語によってコミュニケーションをするイベントです。

国際資源学研究科　博士後期課程　資源学専攻　１年次
オマル　チョコルア　スレイマナ　Chocoroua Omar

I am Chocoroua Omar, a student from Mozambique, currently pursuing a doctoral program at Akita University as an international student.

Akita University’s “Let’s Meet Up” event provides an excellent and distinctive opportunity to connect and interact with students from diverse different countries, languages and cultures. This opportunity is not only extensive for new students but also for senior ones.

The activities are engaging and inspiring, resulting in active teamwork and collaboration among all participants. Therefore, it represents a one-of-a-kind for networking, reducing the burden of daily routines and, most importantly, a timeless and boundless cross-cultural learning experience. I recommend both Japanese and international student not to miss any of this event.

マルチリンガル・カフェ「中国語カフェ」

母語が異なる学生でペアを組み、お互いの母語を教え合う「タンデム学習プログラム」の一環として、2024年７月10日（水）、「中国語カフェ」を開催しました。当日は中国人留学生８名、日本人学生14名が参加。会話練習を通じて打ち解けている様子が見られ、相互理解と親睦を深めていました。今後は韓国語など他の言語に拡充していく予定です。

特別聴講生　夏　心怡

很高兴能参加第一次的汉语交流活动！中国語を勉強している日本人学生や他国からの留学生と、中国語で簡単な会話をするのはとても楽しかったです。クイズと用意されたお茶を楽しみながら、最近若者の間で人気がある飲み物や食べ物がお互いに話し合われました。中国語を第二外国語として話す日本人学生が、中国語を上手に話し、とても口語的な言葉を知っていることに驚きました。如果有机会的话，期待在第二次的活动上见面！

海外留学説明会

2024年５月17日（金）、海外留学を考えている学生向けに「海外留学説明会」を開催しました。交換留学制度や留学支援に関する説明のほか、留学経験のある学生及び留学中の学生との座談会を行い、留学実現に向けて役立つ情報をお伝えしました。対面とZoomのハイブリット形式で開催し、学部１～２年生を中心に、23名が参加しました。

「具体的な留学のイメージが持てた」「先輩のお話を聞けて留学の実情を知ることが出来た」といった感想が寄せられました。

令和５年度 秋田大学 教養基礎教育優秀授業奨励賞

高等教育グローバルセンターでは、教養基礎教育科目の授業評価（総括的）において、学生からの評価が特に高い教員を、優秀授業奨励賞受賞者として年に１度表彰しています。

令和５年度 秋田大学教養基礎教育優秀授業奨励賞を受賞された２名の先生方に「授業における工夫」、「授業の狙い・考え方」、「学生に対する思い」を授業の概要とともに伺いました。

国際資源学研究科
CACALI EVAN REGIS　講師

I strive to engage with each unique student in a supportive, personal, and educational manner. University is a formative time when students should experiment with identities and new ideas, form new habits, and establish new relationships, so I encourage the use of English as a tool for expressing meaningful and relevant ideas and for learning about the broader world. This involves providing chances in each lesson to discuss opinions in small groups or to present on topics that interest students. I also attempt to be fair, relaxed, lighthearted, and interested in whatever we happen to be learning or discussing. My teaching is a work in progress, so paying attention to how students react during class provides me with valuable feedback that allows me to make ongoing adjustments in each lesson. In this way, my students probably teach me more than I ever end up teaching them.

高等教育グローバルセンター
浜田　典子　助教

私は「日本語教育学入門Ⅰ／Ⅱ」という授業を担当しています。本授業では、学生たちが日本語母語話者、日本語非母語話者としての視点を持ち寄り、日本語という言語を多角的に分析しながら、日本語教育について検討しています。

この授業の特徴は、毎授業、日本人学生と留学生がグループになって、ともに分析を行うところにあります。入学したばかりの日本人学生の多くは留学生と話したことがないと言います。はじめはどう言葉をかけていいのかわからないという様子も見られますが、回を重ねるごとに、お互いの言葉に耳を傾け、意見をすり合わせていく様子が見られます。背景や言葉が異なっていても、お互いの持っているものを出し合いながら、よりよいアイディアを作り出す経験をたくさんしてもらいたいと考えています。

TOEIC スコアの進級要件化 －英語力強化のために－

高等教育グローバルセンター
副センター長　教育推進主管
教育活動部門長
宮本　律子　特別教授

気候変動，新たなウィルスの脅威，社会の格差，世界各地で勃発する紛争など，私たちは今，予想不可能な激動の世界に生きています。秋田大学では，この激動の21世紀の地球社会のパラダイム転換を牽引する多角的な視野を持った若者を育てるため，2011（平成23）年３月に，「国際戦略」を策定しました。さらに，2021（令和３）年５月に改訂を行い，「国際性豊かな人材の育成」「海外大学との連携促進」「国際共同研究の推進」「大学の国際化に対応した教職員の資質能力の育成」の４つの戦略を掲げ，大学の国際化を推進してきました。その一環として 2024（令和６）年度入学者からの全学部の入学者を対象にTOEIC L&R スコアを利用した進級要件化を導入しました。あわせて，英語による授業や日英併用の授業を増加させる予定です。

TOEIC進級要件化の背景と内容について少し説明しましょう。これまで，日本ではどの大学においても英語の授業が必修単位となっているにもかかわらず，学生の英語力は入学直後がピークで，その後落ちるばかりと言われてきました（国際関連分野を専攻とする場合を除く）。 ある調査で「学生時代に学んでおけば良かったと思うこと」を社会人に問うたところ，回答者の60％が「英語」と回答しています。その理由は，次の３点です。

理由１：「社会人になって必要と感じたから」
理由２：「若い時の方が吸収力があるから」
理由３：「社会人になると時間がなくなるから」

多くの社会人が大学卒業後，「学生時代にもっと英語を勉強しておけばよかった…」と後悔しているわけです。そこで，秋田大学では，入学後も継続して英語力を鍛え社会に出ても後悔しないような英語の基礎力を身につけさせることにしました。重要な柱は以下のとおりです。

（１）専攻に関わらず，すべての学生の英語の基礎力を保証する
（２）TOEIC L&R のスコアにより，英語の力の可視化をおこない，成長の自覚と主体的な学修へ繋げる
（３）目標達成感により苦手意識を克服し，学習意欲を喚起する

具体的には次のようなことを行います。

（１）英語自主学習（e-learning）教材を活用した必修科目「英語Certificate」を開設し，本プログラム担当専任教員によりきめ細やかに指導する
（２）全学生がTOEICを受験し（受験料は大学負担），合格点（TOEIC400点）に達した時点で３年次への進級条件「英語Certificate」をクリアしたとみなす
（３）さらなるスコアアップを目指す意欲ある学生には，学内留学施設（ALL ROOMs），特別強化コース（イングリッシュ・マラソン），海外交換留学等のさらなる英語力向上を目指すプログラムも用意する

以上のTOEICスコアの進級要件化実施の背景には，国際資源学部での実績があります。国際資源学部では，2014（平成26）年度の学部開設から毎年TOEIC-IPを受けてもらいましたが，思うように英語力の向上が実感できませんでした。そこで2018（平成30）年度入学生から，２年次および３年次への２回の進級時に，TOEIC L&Rの基準スコアを取得することを進級の条件としました。３年次進級の基準点は，文系で550点，理系で450点です。その結果，学部全体の平均点が125点も向上しました（１年次から２年次へのスコアの伸び）。具体的には，資源政策コース（文系）の現３年生は，平均650点に達しており，１年次から２年次への１年間で164点もアップしました。理系のコースでも110点アップし，平均点560点に達しています。このように，文系理系問わず基準点よりもはるかに高い平均点となり，学部全体の大幅な英語力の底上げが見られます。TOEIC対策用の特別な授業を開設したというわけではなく，普段の英語の授業の学修の成果が可視化されたということなのです。

国際資源学部でのこの実績に基づき，2024（令和６）年度入学生からすべての学部でTOEICスコアの進級要件化を実施しています（国際資源学部の基準はこれまでと変わらない）。

大学での学びはGPA以外は自分の学習成果がなかなか目に見えないものです。TOEICスコアの進級要件化は成果の一部を可視化し，皆さんの英語学習のモティベーション維持を助けるはずです。そして，社会に出た後「後悔」しないために秋田大学は在学中の英語の学修をサポートしていきます。

2024年４月～2024年８月　実施
高等教育グローバルセンター国際交流部門事業

時期	事業名
2024年４月４日	留学生オリエンテーション
2024年４月12日	留学生Welcome Party
2024年４月17日・４月24日・５月15日	LET’S MEET UP! －多言語で話そう－
2024年５月17日	海外留学説明会
2024年７月10日	中国語カフェ
2024年７月20日～21日	横手農業体験・地域交流ツアー
2024年７月24日	留学生消防訓練
2024年８月６日	留学生送別セレモニー

秋田大学　国際交流関連データ

■国際交流協定校数（2024年９月１日現在）
大学間協定（38カ国・地域81大学・機関）
部局間協定（23カ国・地域42学部等）

■留学生数　（2024年５月１日現在）

学部生	128名
大学院生	116名
交換留学生・研究生等	34名
合計	278名

編集・発行：国立大学法人 秋田大学 高等教育グローバルセンター

連絡先：国際課（国際交流部門事務担当）
TEL：018-889-2870　E-MAIL： kokusai@jimu.akita-u.ac.jp
総合学務課（教育活動部門・教育開発部門事務担当）
TEL：018-889-3192　E-MAIL： kyomusom@jimu.akita-u.ac.jp